

意欲的に英語学習に取り組む児童生徒の育成

～楽しい授業・わかる授業を通して～

I 研究主題の設定理由

急激に変化する社会において、今後ますます国際化が進展し、国際的な相互依存が深まることが予想される。様々な情報媒体の発達により、世界中の情報を瞬時に得ることができる今、英語は国際的共通語としての役割も大きく、英語によってより多くの人々との交流が可能になる。2020年の東京オリンピックを見据え、小学校における英語教育の拡充強化、中学校における英語教育の高度化を目指した「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」（文部科学省）が出され、今後英語教育の担う役割はますます大きくなっていく。国際社会に貢献していくためにも、将来にわたり、英語学習に意欲的にとりくむ児童・生徒の育成が急務であると考えます。

本地区の児童・生徒を見てみると、英語特区の小学校が半数を占め、すでに英語科として「読むこと」「書くこと」も含めた4技能の学習活動を行っている。その他の小学校でも新学習指導要領に沿った外国語活動が展開されていて、英語教育への関心が高い地域であると言える。一方、小学校では外国語活動に難しさや恥ずかしさによる抵抗感を持っている児童が、中学校では語彙力や文法知識が定着しておらず、なかなか自信を持ってコミュニケーション活動にとりくめない生徒が少なからずいるという課題もある。英語特区で学ぶ児童がいる地域だからこそ、小中連携をより一層深め、より意欲的に英語学習にとりくむ児童・生徒の育成を目指していきたい。

私たちは小学校における外国語（英語）活動を通して育まれるコミュニケーション能力の素地や、中学校英語における語彙力や文法知識、教科書を読めることなどの「基礎学力」を児童・生徒に身に付けさせなければならない。このような基礎学力を身に付けさせていくためには、学習の原動力や推進力となる学習意欲を高めることが最も重要であると考えます。

そこで、外国語（英語）活動において、小学校と中学校の連携を軸に、児童・生徒が「楽しい」と感じ、「わかる」と思う授業を創造することで、学習者がより意欲的に英語学習にとりくむだろうと考え、本主題を設定した。

II 研究の具体的な進め方

1 学習者にとって、「楽しい授業」「わかる授業」とは何かを研究する。

- ・小学校・中学校間で情報交換をすることで、共通理解を図る。
- ・小中連携で、どのようなことが可能か、講師を招いて学習する。
- ・英語学習における基礎学力を児童・生徒に身に付けさせていくうえで必要となる学習意欲を高めるための指導の工夫について研究する。

2 小中部会で分かれて具体的な活動を検討する。

- ・小学校部会では指導案の検討を中心に行った。
- ・中学校部会では学年ごとに情報交換・教材研究・テーマに沿った教材作成とその検証授業を行った。小中連携を生かした指導を研究し、実践した。

3 研究主題を意識した研究授業と研究協議

8月31日 授業者 天野 由梨教諭（勝沼中学校）

2月 8日 授業者 藤木真里佳教諭（日下部小学校）

- ・研究授業では、研究テーマである「楽しい授業」が「わかる授業」、「わかる授業」が「楽しい授業」であることを改めて認識することができた。中学校の授業の中で「Hi, Friend!」を活用するアイデアや、どちらの授業においても、ICTを活用する場面があり、有効性を再認識するきっかけとなった。

III 研究の成果と課題

1 成果

研究テーマにあるように、「わかる授業」が「楽しい授業」になることが改めて認識でき、指導者が学習者をよく理解し、わかるようにするための工夫について意見交換ができたことが大きな成果と言える。授業を支える基盤となる学級集団作りの重要性も改めて感じる事ができた。今年度は部員数が減り、分科会の規模が昨年度に比べて小さくなったが、「楽しい授業とは」、「わかる授業とは」を常に考えながら、協働学習を行い、様々なアイデアを出し合うことができた。研究活動においては、小中に分かれての教材研究、指導法の工夫を検討し授業実践へ生かしてきた。夏季学習会では講師を招聘し、外国語研究部会でできる小中の連携の工夫・アイデアを学習した。

中学校の授業で小学校の教材を取り入れることで、新出文法の導入をスムーズにする工夫や小学校で取り組んでいるチャンツなどが中学校の授業の中に活かしているなど、授業研究を通して小中連携をさらに進めることができた。また、中学校部会では、東山梨共通のCAN-DOリストの改訂を進めることができた。

2 課題

昨年度に比べ部会の人数は少なく、さらに欠席する数も多く、研究が深められなかったことが大きな課題であった。また、小学校の高学年担当の先生だけでなく、低学年や中学年担当者が加わると、さらに研究が深められるのではないかと思う。互いの授業を参観するだけにとどまらず、互いの実践を活用し合うこと、今後の動向を共有しておくことで、小学校から中学校への繋がりがスムーズになるだろうと考えている。小中連携を念頭に置き、より多くの接点を意図的に作ることで、児童・生徒の学習意欲高めていきたい。来年度はさらに、先進的な研究を知るためにも、理論研究では最新の技術や情報を得る学習会を開き、研究を深めたい。

（部長 塩山中学校 水上かおり）